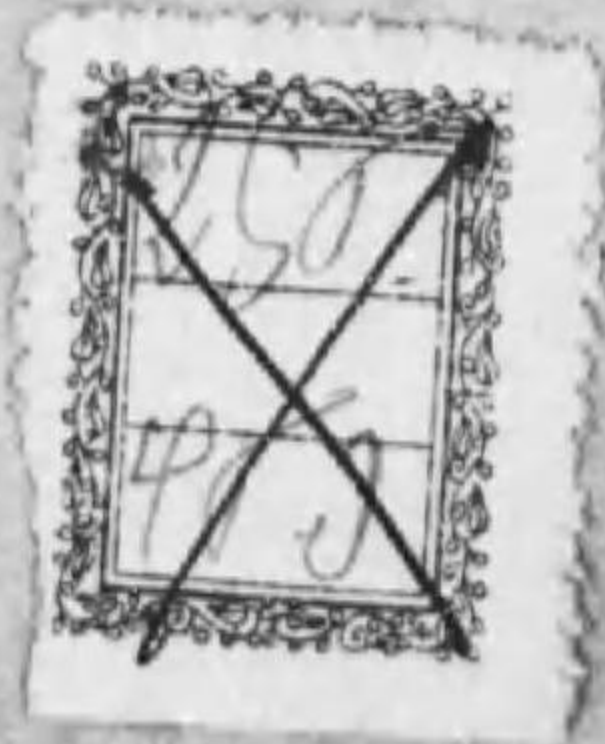


特113

889

9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁹m 1 2 3 4 5

始



特113
889



	ツレ	ワキ	後シテ	ツレ	シテ	後
	從僧二人	僧	中將姫の靈	化	化	別
	右同斷	大口僧	〔面〕泣増 襟 黒垂 天冠 着附箔 色大口 舞衣(長絹にも) 腰帶 經 扇	〔面〕小面 襟 曇 同帶 着附箔 唐織着流し	〔面〕姥 襟 花帽子 着附箔 唐織着流し 珠數 杖三床几	裝
						東
						附
目番五	四	類別	寺麻當國和大			所
(目番初)						季
						月

當^{たへ}

麻^ま

内之部卷之九ノ五

當麻一

大正
5. 4. 7
内交

解説

ワキ次表 『教へ嬉しき法のかど』 此處ハツキリ納めて諺ふべし。名宣、道行同断、着詞濟み何れも脇座に行き下に居る。

シテ表 『一念彌陀佛即滅無量罪』 此處納めて諺ふべし、位あり。『涼しき道は頼めしや』と諺ひ果て、二人共舞臺に入り、ツレは中に立ち、シテは常座にて又向き合ひ、

二人次第 『濁りにしまぬ蓮の糸』 と、しつとり諺ふべし。地取りにて二人共正へ直す。

シテサシ 『有難や諸佛のちかひ様々なれ共』 此處は少し氣を變へ諺ひ 『いつ、の雲は晴やらぬ』 の、連吟になり又向き合ひ、調子に心つけ諺ふべし。

上歌留置 『御法の場にまじる也』 此處にてシテ、ツレと入れ替り、ツレは角へ行き立ち、シテは中に出で立つ。

ワキ次表 『如何に是成かたぐに尋ね申すべき事の候』 此詞はシテへかゝり諺ふ。以下懸合宜しくありて、

朝六枚表 『色はえて掛し蓮のいとどくら』 と、初回は納めて軽くつけ諺ふ。

夕六枚表 『抑此の當麻の曼陀羅と申すは』 此處にてシテ、中に行き床几。

クセ クセはすべて口傳なり。

九枚表 『實にや貴き物語』 此處より少し氣を變へ諺ふべし。

十枚表 『暇申して歸る山の』 此後諺、形とも大事の所さ知るべし、口傳あり。中入。間濟み待諺、夫より出羽打出す。

後シテ、左に經、右に扇持ち出で、舞臺に入り、

十一枚表 『唯今夢中に現はれたるは』 と諺ふ。此後種々形あり、心得て諺ふべし。

十二枚表 『いた、きまつれや〜』 此處にてワキへ經を渡す。ワキ受取り開き見る

十三枚表 『一聲ぞ有難や』 と、早舞。

十四枚表 『後夜の鐘の音』 此處に納めて諺ふ。以下シテに形種々あり、見計ひ諺ふべし。

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of text with some diacritics and a small symbol at the top left.

Handwritten text in Arabic script, consisting of several lines of text with some diacritics and a small symbol at the top left.

終

